

## イザヤ書26-27章「回復した神の都」

### 1A 正義と平和の都 26

#### 1B 強い都 1-6

1C 主に明け渡す者たちの救い 1-3

2C そびえ立つ都を低くされる方 4-6

#### 2B まっすぐにされた道 7-14

1C 地における裁き 7-9

2C 君主たちの滅び 10-14

#### 3B 苦難における15-21

1C 叫び求め 15-19

2C 身を隠す民 20-21

### 2A 美しいぶどう畑 27

#### 1B 実を結ばせるイスラエル 1-6

1C レビヤタンへの罰 1

2C 主が守られる畑 2-6

#### 2B 救いのための懲らしめ 7-13

1C 一時、打たれるイスラエル 7-9

2C 廃墟の町から礼拝の山へ 10-13

## 本文

イザヤ書 26 章を開いてください、今晚は 26-27 章を見ていきます。私たちは、ついに 1 章におけるイザヤの預言が、ここにおいて回復している将来の希望の姿を見ます。1 章において、エルサレムが不正にまみれている現状を責めていました。「1:21-23 どうして遊女になったのか、忠実な都が。公正があふれて、義がそこに宿っていたのに。今は人殺しばかりだ。おまえの銀は金かすになった。おまえの良い酒も水で薄められている。おまえの君主たちは強情者、盗人の仲間。みな賄賂を愛し、報酬を追い求める。みなしごを正しくさばかず、やもめの訴えも彼らには届かない。」1 章から 5 章にかけて、エルサレムとユダが、罪と不正に満ちている惨状をイザヤは預言したのですが、それがついに、主が戻ってこられることによって元に戻るのです。

私たちは少しずつ、ぶつ切りにして預言を見てきたのですが、一連の流れがあるのです。1 章から 5 章までにエルサレムの都を中心に、6 章から 9 章までにユダの国全体を預言し、9 章から 11 章までに北イスラエルを含めた幻を語り、そして 12 章から 23 章までに周囲の国々に対する預言がありました。そして 24 章から、終わりの日、全世界で何が起こるかについて、イザヤは預言しています。前回、地の面が揺らぎ、大異変が起こるけれども、主が戻ってこられてエルサレムに立

ち、王となられるところを見たのです。そして万民のための祝宴が開かれて、人々の涙と恥辱が拭いさられる希望が語られていました。

### 1A 正義と平和の都 26

そして 26 章では、その都がいかに堅固であるのかを教えてください。これまでは、敵に襲われて、踏みにじられていた都ですが、主が守ってください、敵どもを滅ぼされる姿であります。主イエスが再び地上にいられて、エルサレムで王となられて、その都がどうなっているのかを見ていきます。それは、正義と平和に満ちた強い都です。

### 1B 強い都 1-6

#### 1C 主に明け渡す者たちの救い 1-3

<sup>1</sup> その日、ユダの地でこの歌が歌われる。私たちには強い都がある。神はその城壁と塁で私たちを救ってください。<sup>2</sup> 城門を開けて、忠誠を尽くす正しい民を入らせよ。<sup>3</sup> 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

ユダの地での歌です。イザヤ 5 章では、ユダを、愛されているぶどう畑に喩えて、主は歌われていました。ここでも歌を作っておられます。

この都は、「強い」とあります。それは、敵どもがやってきても、どんな横暴な敵であっても、ことごとく倒され、滅んでしまうところの強固な都です。城壁と塁がしっかりしており、そこに入れば救われる、つまり安全に守られます。しかし、これは単なる物理的な救いではありません。入ることのできる者たちは、「忠誠を尽くす正しい民」です。そして、「志の堅固な者」たちです。

「忠誠を尽くす」とは、十分に信頼しているという意味合いがあります。十分に信頼しているので、その信頼を神は正しいとみなしておられます。つまり、信仰によって義と認められている人々です。そして、「志が堅固」というのは、主に対して、すべてを明け渡していることを指しています。主に自分の全てをゆだねた者であります。そうした者を、主は「全き平安」で守ってくださいなのです。全き平安です、この世には存在していない、上からの平安です。

チャック・スミスが、ある時に宗教の論議をするところに招かれたそうです。そこには知識人が多く集まっていたのですが、何だかよく分からない、難しい議論が延々と続いていました。何も話す余地はないな、と半ばあきらめていたところ、一人の女性が、「せっかく牧師さんをお招きしたのですから、話すのではなく、耳を傾けてみましょう。」と言ったそうです。それで、チャックはこう言い出しました。「私には、心に全き平安があります。」それでその場はしん静まりました。全き平安など、到底、誰も言えなかったからです。そこで、キリストが十字架の上でしなれたこと、そこで永遠の救いを成し遂げてくださったことを語ったのだと思います。その場でイエス様を信じて、受け入れる人が

起こされたそうです。

このように、キリストにある平安は全き平安であり、その平安は、主を信頼して、この方にすべてを明け渡している中で与えられるものです。

#### 2C そびえ立つ都を低くされる方 4-6

<sup>4</sup> いつまでも主に信頼せよ。ヤハ、主は、とこしえの岩だから。<sup>5</sup> 主は高い所、そびえ立つ都に住む者を引き倒し、その都を低くして、地にまで下らせ、これを投げつけて、ちりにまで下らされる。<sup>6</sup> 足がこれを踏みつける。苦しむ者の足、弱い者の足の裏が。

主への信頼を呼びかけています。主は、とこしえの岩だからです。岩の陰に隠れていれば、安全なのです。そして、どんなに高い所、そびえ立つ都に住んでいても、主への信頼がない者たち、己を誇りとしている都はことごとく倒されるのです。当時は、その都の強さが、高い山の上にある自然要害が特徴でした。トルコ旅行で、ベルガモンの遺跡を見ましたが、高い山に数々の偶像の宮があり、その優雅さを感じ取ることができました。

そして、苦しむ者が、弱い者が、その塵とかした都を足の裏で踏みつけます。これが、勝利の姿です。主にあって貧しくされている者、弱くされている者こそが、この世で最も強い者を踏みつけることとなります。キリストご自身が、サタンを踏みつけてくださったからです。パウロが、ローマにある教会の兄弟たちに対して、こう励ました。「16:20 平和の神は、速やかに、あなたがたの足の下でサタンを踏み砕いてくださいます。どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。」

#### 2B まっすぐにされた道 7-14

##### 1C 地における裁き 7-9

<sup>7</sup> 正しい人の行く道は平らです。あなたは正しい人の道をならし、平らにされます。<sup>8</sup> 主よ。まことに、あなたのさばきの道で 私たちはあなたを待ち望みます。あなたの御名、あなたの呼び名は 私のたましいの望みです。<sup>9</sup> 私のたましいは、夜にあなたを慕います。まことに、私の内なる霊はあなたを切に求めます。まことに、あなたのさばきが地に行われるとき、世界の住民は義を学びます。

私たちは以前、大路についての幻を読みました。「11:16 残されている御民の残りの者のためにアッシリアから大路が備えられる。イスラエルがエジプトの地から上って来た日に、イスラエルのために備えられたように。」当時の人々にとって、舗装された道路というものはありませんでした。大きな石などが取り除かれた、平らな道、まっすぐな道というものはとても貴重でした。ここでは、神を信頼することによって義と認められた者たちの道は、平らなのだ、つまり倒れることはない、と教えているのです。詩篇にも祈りとして、このようなものがあります。「27:11【主】よあなたの道を

私に教えてください。私を待ち伏せている者どもがいますから私を平らな道に導いてください。」

そして、このようにして主を信じ、主を待ち望んでいるのですから、神が正しく裁かれる、報いてくださることを期待しています。イエスが山上の垂訓で言われた通りです、「義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。(マタイ 5:6)」そして、そのために、主の御名を呼び求めています。それが、自分のたましいにとっての、望みになっています。イエスの御名を私たちが呼び求めて、この方が自分のたましいにとっての望みなのです。そのために、夜にも主を慕います。内なる霊が切に求めているのです。

そして、その信仰の中で、終わりの日に主が必ず地上で裁きを行われることを見ており、その時に世界の住民が義を学ぶのです。「黙 1:7 見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちさえも。地のすべての部族は彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。しかし、アーメン。」このように、すべての人が戻ってこられるイエス様の姿を見て、その十字架の傷跡が残っている姿を見て、この方の義を知るのです。

#### 2C 君主たちの滅び 10-14

<sup>10</sup> 悪しき者は、恵みを受けても義を学びません。公正の地にあっても不正を行い、主のご威光を見ようとしません。<sup>11</sup> 主よ。あなたの御手が上げられても、彼らは見ようとしません。どうか彼らが、この民へのあなたの熱心を見て、恥じますように。まことに火が、あなたに逆らう者を なめ尽くしますように。

正しい者と対比して、悪者に対する思いを述べています。悪者の定義を見てください、「恵みを受けても義を学びません。」であります。何が悪を構成しているのか？それは、神の憐れみに応答しないということです。神はどんな悪者でも、ご自身に立ち返るなら、これまでの罪を全て帳消しにする憐れみ、恵みを施しておられるのです。しかし、本当の悪というのはその恵みに応答しないことであります。

さらに、主の公正が満ちて、主のご威光が満ちているのに、それさえも見ないのです。正しいことを見れば、私たちの魂は満たされると思います。いや、正しいことを見ても、それをよしとしないのが、人間の墮落した姿です。

ここで大事なのは、神の御国が地上で立てられている時に、なおのこと、心の奥底では回心していない者たちがいるということです。マタイ 25 章には、御子が即位された時に、国々が集められて、羊とやぎをえり分けるように、御国に入る者と、地獄に投げ込まれる者をえり分けることが預言されています。御国に入る者たちの中に、復活のからだではなく、そのまま入る人たちもいるのです。御国においては、神の恵みもあり、公正もあります。そして、悪魔は底知れぬ所で鎖につな

がれています。ですから、世における誘惑がなくなっているのに、罪を犯す機会がないのです。しかし、なおのこと、神の恵みと公正を苦々しく思っています。

ところが、黙示録 20 章によると、千年の終わりに悪魔が解き放たれて、聖なる都を取り囲むことが預言されています。「20:9 彼らは地の広いところの上って行き、聖徒たちの陣営と、愛された都を包囲した。すると天から火が下って来て、彼らを焼き尽くした。」このことが、今読んだ 11 節にある預言なのです。火によって、逆らう者たちがなめ尽くされます。ご自分の民を滅ぼそうとするものを、容赦しないのです。

<sup>12</sup> 主よ。あなたは 私たちのために平和を備えてくださいます。まことに、私たちのすべてのわざも、あなたが私たちのためになされたことです。

これは、義について語っているからこそ、出てくる内容です。神の義があるからこそ、平和があります。これは人間の考える平和とは大違いです。私たちは和を尊びます。ですから、罪を犯している人がいても、その人を、罪を犯したままで受け入れることによって平和を保とうとします。しかし、罪からの悔い改めがなければ、たちまちそこには平和がなくなります。

そして、平和が備えられているのは、「すべてのわざが、神が備えてくださったものだ」というところに基づいています。自分たちが神のために、神に貢献するために行おうとしていることであれば、それは肉の努力なので必ず争いや妬みが起こります。そうではなく、神の予め用意された良い業があり、それが実現していく時にそこには美しい平和があります。パウロがこう話しました。「エペソ 2:10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。」

<sup>13</sup> 私たちの神、主よ。あなた以外の多くの君主が私たちを治めました。私たちはただあなただけを、あなたの御名を呼び求めます。<sup>14</sup> 彼らは死人であって、生き返りません。彼らは死者の霊であって、よみがえりません。それゆえ、あなたは彼らを罰して根絶やしにし、彼らについての記憶をすべて消し去られました。

神の民とされた者の告白は、代々の世の支配者の中でも変わらずに、主なる神のみを王として、その御名を唱えることにあります。私たちは教会として、イエスこそが救い主であられ、主であり王であることを告白しているのです。これは、ローマ帝国であった初代教会においても、そうであったし、いつの時代でも全く同じように告白したことです。そして、キリスト再臨後の神の国において、確かにキリストが王となられている姿を見ることができます。

そして 14 節ですが、これは 24 章 21-22 節に書かれていたことが背景にあります。王たちが主

なる神によって牢獄に閉じ込められ、何年か後に出て来て罰せられる、とありました。王たちが再臨のキリストによって滅ぼされたら、彼らは陰府に下ります。ですから、地上での神の御国の千年間は、彼らは自分たちを圧迫した君主たちの記憶で悩まされることはなくなる、ということです。

### 3B 苦難における15-21

#### 1C 叫び求め 15-19

<sup>15</sup> 主よ。あなたはこの国民を増し加えられました。この国民を増し加え、ご自身の栄光を現し、この国のすべての境を広げられました。

今、イスラエルの国民のことを話しています。この国民が再臨のイエスによって贖われ、それによって神の国ではイスラエルに栄光が与えられ、その国境は広がられます。アブラハムには、エジプトの川からユーフラテスまでと主は約束されましたが、ソロモン王国以上の広域をイスラエルは所有することになります。けれども、そこに至るまでの道は苦難です。

<sup>16</sup> 主よ。苦難の時に彼らはあなたを求め、あなたが懲らしめられたとき、彼らうめきの声をあげました。<sup>17</sup> 子を産む時が近づいた妊婦が産みの苦しみで、もだえ叫ぶように、主よ、私たちは御前でそのようでした。<sup>18</sup> 私たちは身ごもり、産みの苦しみをしました。それはあたかも、風を産むようなものでした。私たちは救いを地にもたらず、世界の住民はもう生まれてきません。

主が、終わりの日に全地を裁かれますが、その時期に選ばれた民にとっては、苦難の時となります。荒らす憎むべき者が、聖所の中に立つのを見たらならば、ダニエル書にあるように、大きな患難の時がある、あなたがたは山々に逃げなさいとイエス様が言われました。そして、こう言われました。「マタイ 24:21-22 そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。もしその日数が少なくされないなら、一人も救われないでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、その日数は少なくされます。」この苦難には、特別な計らいが選ばれた民のためにあるのです。ダニエル書 12 章 7 節には、これは聖なる民の力を打ち砕く時であるとあります。つまり、ユダヤ人がその力が砕かれて、キリストのみにより頼むようにするのだ、ということです。しかしそれまでは、ユダヤの民は救いをもたらず、また世界の住民は、大患難の中でどんどん死んでいきます。

<sup>19</sup> あなたの死人は生き返り、私の屍は、よみがえります。覚めよ、喜び歌え。土のちりの中にとどまる者よ。まことに、あなたの露は光の露。地は死者の霊を生き返らせます。

ダニエル書 12 章 2 節に、患難時代の終わり、主が戻って来られたら、生き返らせることが書かれています。「ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。ある者は永遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。」

## 2C 身を隠す民 20-21

そして次に、その患難の間、残された民を隠して生かしてくださることを預言しています。

<sup>20</sup> さあ、私の民よ。あなたの部屋に入り、うしろの戸を閉じよ。憤りが過ぎるまで、ほんのしばらく身を隠せ。<sup>21</sup> それは、主がまさにご自分のところから出て、地に住む者の咎を罰せられるからだ。地は、その上に流された血をあらわにし、そこで殺された者たちを再びおおうことはない。

ユダにいる人々は、荒らす忌まわしい者が聖なる所に立ったら、山々に逃げなさいとイエス様に言われました。エドムにあるボツラ、今のペトラの方に逃げます。そこで反キリストが率いる軍隊が彼らを押し流そうとするのですが、その水をモアブやエドムの地が飲み干すことを黙示録 12 章が預言しています。その間、偽預言者や偽メシアが出て来ても、出ていってはならない、荒野にいらつしゃると言っても出ていってはならないとイエス様は言われていました(マタイ 24:23-27)。

そして、主は天から戻って来られます。ボツラのほうに向かわれ、反キリスト率いる諸国の軍隊と戦われます。そしてエルサレムにいる住民を救うために向かわれて、そこに攻めてくる軍隊と戦われて、それでオリブの山に立たれます。このようにして、主は残りの民に対して、受ける懲らしめは一時的であり、それは彼らの救いのためであることを教えておられるのです。

そして、その残りの民を滅ぼそうとする者たちには、容赦ない裁きを行われ、血の海となります。「黙示 14:19-10 御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。」

## 2A 美しいぶどう畑 27

### 1B 実を結ばせるイスラエル 1-6

#### 1C レビヤタンへの罰 1

<sup>1</sup> その日、主は、鋭い大きな強い剣で、逃げ惑う蛇レビヤタンを、曲がりくねる蛇レビヤタンを罰し、海にいる竜を殺される。

主が戻ってこられた時に、蛇を罰せられます。主は、悪魔を殺されます。「レビヤタン」とありますが、これはヨブ記 41 章に出てくる大きな動物です。その描写を読むと、これは竜でないかと思われませんが、ここイザヤ書ではっきりと、これは竜であると言っています。さらに蛇であるとも言っています。竜であったところが、蛇になったと言っても良いかもしれません。なぜなら、創世記 3 章において、エバを惑わした蛇は、神に呪われたことによって地を這う生き物にされました。その前は地を這っていなかったこととなりますから、竜であった可能性があります。いずれにしても、彼はサタンです。黙示録 12 章にはっきりと、赤い竜が古い蛇、サタンであると書かれています。

そして黙示録 20 章を見てみましょう。「20:2-3 彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に封印をした。その後、竜はしばらくの間、解き放たれることになる。」そして千年後、サタンは解き放たれますが、その後で 10 節に、火と硫黄の池に投げ込まれます。

ここから私たちは、横暴な国々、その力のような背後にこの悪魔の仕業があったことを教えてくれます。黙示録を読めば、竜と獣である反キリスト、そして偽預言者であるもう一頭の獣が出てきますが、物理的な力で、主の言葉を信じる者たちが迫害、殉教にあっています。そして宗教的な力、その偽預言者によっても、迫害されています。その背後には、サタンがいます。しかし、主がレビヤタンを罰し、最後には殺されます。ここに私たちの希望があります。しっかりと忍耐して、こうした圧迫は過ぎ去るのだという希望です。

#### 2C 主が守られる畑 2-6

<sup>2</sup>「その日、美しいぶどう畑について歌え。<sup>3</sup> わたし、主はそれを見守る者。絶えずこれに水を注ぎ、だれも害を加えないように、夜も昼もこれを見守る。<sup>4</sup> わたしにもう憤りはない。もしも、茨とおどろがわたしと戦えば、わたしはそれを踏みつぶし、それをみな焼き払う。<sup>5</sup> あるいは、もしわたしという砦に頼りたければ、わたしと和を結ぶがよい。和をわたしと結ぶがよい。<sup>6</sup> 時が来れば、ヤコブは根を張り、イスラエルは芽を出し、花を咲かせ、世界の面を実で満たす。」

「美しいぶどう畑」についての歌、覚えていませんか？5 章において、主が愛の歌をうたわれしました。せっかくしっかりぶどうの木から実がなるように育て養ったのに、酸いぶどう酒が出て来てしまいました。しかし今や、彼らから実が結ばれています、主が水を注ぎ、またいつも見守ってくださっています。すばらしいですね、これは私たちキリスト者が、聖霊によって実を結ばせている姿でもあります。そして、「わたしにもう憤りはない。」という言葉が大事です。主が裁かれるのは、ご自分の民にとっては一時的です。目的は、彼らが実を結ばせることができるようにするため、彼らを滅ぼすためではありませんでした。

そして、彼らに対して敵対する者があれば、その者どもを踏みつぶし、焼き払うと言われます。つまり、主が味方になってくださいます。「ローマ 8:31 神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」であります。そして、そうした、贖われたイスラエルに敵対している者たちに対しても主は、「わたしと和を結ぶがよい。」と呼びかけておられます。これはすばらしいですね。そうすれば、自分たちも祝福されるのです。

それからヤコブが実を結ぶことが 6 節に書いてありますが、これは喜びや平和などの霊的な実のみならず、物理的にもこのような実を結ぶことでしょう。終わりの日に、イスラエルはこのような



花が咲き乱れるところとなります。そして世界にそれを運んでいく国となります。けれども今のイスラエルも、荒地だったところを開墾して、花を育て、輸出する国になっているのを見ると、その前触れを見る気分です。

## 2B 救いのための懲らしめ 7-13

### C 一時、打たれるイスラエル 7-9

<sup>7</sup> 主は、イスラエルを打った者を打ったように、イスラエルを打たれたらうか。イスラエルを殺した者を殺したように、イスラエルを殺されたらうか。<sup>8</sup> あなたは追い立て、追い出し、彼らと争い、東風の日、激しい息で彼らを吹き払われた。<sup>9</sup> それゆえ、次のようにしてヤコブの不義は赦される。祭壇の石をすべて、粉々にされた石灰のようにし、アシェラ像と香の台を二度と立てなくすること、これが、自分の罪を除いて得る実のすべてだ。

異邦人の国々が主に拠って打たれる時は、滅びに至る裁きでした。けれども、イスラエルに対しては違います。イスラエルは確かに追い立てられたけれども、それは自分たちの不義を、偶像と罪を投げ捨てていくことによって、神からの赦しを得るための手段だったのです。私たちはしたがって、自分の心にある罪、偶像、こうしたものが取り除かれる時に、痛みを伴うことを知ります。最も自分が大事にしているもの、それが主ご自身をも越えて与えられるもの、それを主が取り除かれます。しかし、その悔い改めの先には、豊かな罪の赦しがあるのです。

### 2C 廃墟の町から礼拝の山へ 10-13

<sup>10</sup> 城壁のある町はひとり寂しく、捨て置かれた牧場のようになり、見捨てられて荒野のようになる。そこで子牛が草をはみ、そこに伏して、その木の小枝を食い滅ぼす。<sup>11</sup> 枝が枯れると、それは壊され、女たちが来て、それに火をつける。これは悟りのない民だからだ。それゆえ、これを造った方はあわれまず、これを形造った方は恵みをお与えにならない。

エルサレムから主が離れて、その町が荒野のように見捨てられている、とあります。なぜなら、彼らが悟りのない民だから、ということです。まだ悟っていない時、彼らは散らされていました。

<sup>12</sup> その日、主はあの大河からエジプト川まで 穀物の穂を打ち落とされる。イスラエルの子らよ、あなたがたは一人ひとり拾い上げられる。<sup>13</sup> その日、大きな角笛が鳴り渡り、アッシリアの地にいる失われていた者や、エジプトの地に追いやられた者たちが来て、エルサレムの聖なる山で主を礼拝する。

主が患難の終わりの時に、主が戻られる時に、穂は打ち落とされるのですが、それでも拾い上げられると神は約束してくださっています。世界離散のユダヤ人が再び集められる約束です。しかも、それはユーフラテスからエジプトの川まで、つまりアッシリアからエジプトに至るまでそれを行な

われる、ということです。19章には、アッシリアもエジプトも共に主をあがめる預言がありました。イスラエルが第三の国となりますが、その一帯が主を礼拝するための地域となります。その時に、散らされていた人々が戻ってきて、主を礼拝できるようになるのです。

すばらしい回復です。主は決してご自分の選ばれたものを、お見捨てにはなっていないということです。